

未来プロジェクトに参加して

静岡県立大学薬学部薬学科4年 実践薬学分野 池田拓未

Session1

本Sessionではチーム医療に何が必要かというテーマで様々な職種間で議論した。議論を始める前、チーム医療とは「患者さんを中心として医療スタッフが患者さんの治療のサポートをする」という漠然とした考えを持っていた。

テーマに取り組むことによって、グループのメンバーと様々な意見を交換し合い、患者さんの立場に立った医療を行うために何が必要か具体化することができた。①スタッフ一人ひとりの専門性を高めること、②医療スタッフ間での連携を綿密にし情報を共有すること、③患者さんとコミュニケーションを取り、患者さんの求めるニーズを引き出し、ニーズに応じた情報を提供することが重要であると感じた。

そしてチーム医療のゴールとは患者さんと医療スタッフが同じ目標を共有することであると強く感じた。

Session2

本Sessionでは乳がん患者さんの体験談、想いなど生の声を聞かせていただいた。患者さんの生の声は大変重みがあり、考えさせられることが多くあった。

私個人として薬学生の観点から、治療薬の副作用についての情報提供がなされていなかったという話には耳を疑う思いで聞いていた。その副作用により大量出血を起こし血液の冷たさで目が覚めたという話、この副作用に関しての医師の不誠実な言動に衝撃を受けた。

体験談から、私は、患者さんが治療薬や治療法について不安があれば相談できやすい環境を作ること、薬剤師が病棟に出て患者さんの訴えに耳を傾け、病気・治療への疑問を解消する必要性を改めて感じる事ができた。

このSessionでは他の職種からも意見を聞くことができ、それぞれ違った視点から自分にはなかった考えに触れることができとても良い刺激を受けた。看護師からは手術とその後のケア、本人・家族へのメンタルケアの必要性、臨床検査技師からは検査のスピードアップを図り、迅速に診断を確定させることの必要性が語られ、貴重な意見を聞くことができた。薬剤師としての専門性を高めることは重要であるが、他分野に関しても興味を持ち、少し勉強してみたいと思った。この姿勢は医療スタッフ間のコミュニケーションを円滑に進めるために役立つのではないかと思った。

また、患者さんは病気や治療について大変勉強されていることを実感した。医療スタッフは常に最新の情報を正確に入手し、サポートしていかなければなら

ないと強く感じた。

この Session ではさらに、患者さんがスタッフの何気ない一言やしぐさで一喜一憂されることを知った。患者さんに対して正しい情報を正確に伝え、状況に応じて不安を取り除いたり、勇気づけられるコミュニケーションの取り方を学ぶことが必要であると感じた。

Session3

本 Session ではコミュニケーションの取り方を学んだ。話し手として、自分の気持ちを相手に伝えることの難しさを痛感した。誰にでも理解できる言葉で話し要点を先に述べること、相手の状況を把握して話を展開することが大切であると感じた。特にガン医療においては、患者さんは告知を受けた際、「ガン=死」と思い頭が真っ白になるとのことで、相手と同じ目線で病状等を説明することが大事であると思った。

聞き手は、話し手の本心を引き出し、気持ちを受け止めるために様々な技術を駆使する必要があること学んだ。特にガン医療において患者さんは様々な不安や疑問を抱えられており、医療スタッフはその様な気持ちを探り、気持ちを理解したことを伝えることが大事であると感じた。

Session4

本 Session では治療方針の構築の仕方を学んだ。

本 Session では実際にある課題に取り組むことで情報の扱い方に関する新たな発見があった。情報が多ければ多いほど治療の選択肢の幅は広がる。一方で情報の内容に対して重要度の優先順位をつけ、情報の信頼性を評価することが大切であると感じた。

総括

今回グループワークを通して、様々な価値観を持った人たちと意見交換・情報共有することで、コミュニケーションを基盤として人と人のつながりは成り立っていること強く感じた。そのため患者さんを相手にする医療スタッフは誰よりもコミュニケーション能力・技術を磨く必要があり、相手を思いやる気持ちが重要であると思った。

日常生活において、今回学んだ技術を取り入れ、意識して活用しトレーニングを重ねていきたいと思った。また、薬剤師としての知識・技術などを貪欲に吸収し、患者さんの治療法の選択肢の幅を広げ治療の手助けをしていきたいと思った。病気を診ずして病人を診る薬剤師になることを目指していきたい。